

大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 国立天文台
天文シミュレーションプロジェクト 科学諮問委員会（2024-2026 第 1 回）

□ 日時と場所

日時：2024 年 11 月 15 日(金) 13:00-14:10 (JST)

場所：ZOOM によるオンライン開催

□ 参加者（敬称略）

* 出席委員

松本倫明、久徳浩太郎、高棹真介、中村航、野村英子、藤井通子、和田桂一（途中参加）

* 欠席委員

なし

* 陪席者（オブザーバー）

小久保英一郎（CfCA プロジェクト長）、滝脇知也（CfCA SAC 担当）、CfCA 研究支援員 1 名

* 書記

CfCA の研究支援員が担当

□ 議事次第

- * CfCA 長挨拶
- * 書記の決定
- * 委員長の承認
- * 自己紹介
- * 協議事項
 - ・ TAC 候補の決定
 - ・ 議事録の公開の仕方について
 - ・ 前期委員からの引き継ぎ
- * 報告事項
 - ・ 2024 年度リプレイスの進捗報告

□ 資料一覧

1. CfCA 時間割あて委員会（TAC）の概要
2. CfCA 科学諮問委員会の概要
3. リプレイスの進捗状況

□ 議事

* CfCA 長挨拶（小久保）

SAC は CfCA の活動に対して助言を頂くもので、CfCA の最新の状況を共有しながらよりよい活動に向けて協力していければと考えている。CfCA からはプロジェクト長の小久保、SAC 担当の滝脇、書記のほか、必要に応じて担当者が参加する。

* 書記の決定

CfCA の研究支援員に決定した。（小久保）

* 委員長の承認

委員長は 2 期目の委員から選出したく、松本委員にお願いしている。（小久保）

お受けする。ここからの議事進行は自分が進める。（松本）

（他の委員の異議なし）

* 自己紹介

省略

* 副委員長の決定

副委員長は TAC の委員長も務めることになる。負担の公平性の観点から、こういった職務の経験がない方にお願いできればと考える。高棹委員はどうか。（松本）

お受けする。（高棹）

（他の委員の異議なし）

□ 協議事項

* TAC 候補の決定（松本）

TAC について確認する。任期は 2 年。CfCA の共同利用募集が年 2 回あるため、通算で 4 回以上委員会が開かれる。メールで議論が行われることもある。

TAC は CfCA 共同利用の申請においてレフェリーの意見を参考にその申請の採否、採択カテゴリを決めるのが役割である。また申請の形式や計算資源の分配に関する方法、ルール等を決める役割もある。

人数は内部委員 2 名以上に外部委員を加えて全体で 7 人程度である。

SAC と TAC の関係について、一般にはメンバーを分けたほうがよい一方で、兼任すると運用の情報共有の手間が省けるという利点もある。2022 年以降、SAC のメンバーの一部が TAC を兼任している。

これまでの経緯を踏まえ、高棹委員に TAC 委員長に就任していただく。（松本）

内部委員については継続を基本とするが、一部は後任を選出する必要がある。（滝脇）

TAC の役割について、申請に点数を付けるのは TAC ではないという認識でよいか。（藤井）

そのとおりで、レフェリーが採点して順位が付いたものに対してどこまで採択するか、どのカテゴリで採択するかを検討する。学生や若手のポストドクを優遇することになっているので、その点も考慮する。（滝脇）

カテゴリごとの採択件数は厳密には決まっていないので、どこにボーダーラインを引くかを TAC で検討する。（松本）

レフェリーは誰が選ぶのか。（藤井）

CfCA 長と SAC 委員長で選ぶ。（小久保）

TAC 委員は計算手法や分野が偏らないように選ぶ必要があるだろう。（藤井）

CfCA では主に以下のとおり分類している。（滝脇）

1. 宇宙論（構造・天体形成）
2. 超新星爆発、コンパクト星合体
3. ブラックホール（EHT 関連、超大質量 BH 形成）
4. 銀河（銀河形成、化学進化、銀河動力学構造・位置天文、太陽系形成）
5. 星間媒質（大質量星形成・宇宙線、PIC 計算）
6. 星形成・惑星形成（衝突計算、月形成、円盤）

7. 太陽

若手のアクティブユーザで候補を挙げていただきたい。（松本）

任期付きの人は外した方がいいのか。（久徳）

そのほうがよいだろう。（松本）

各分野の担当と経験を考慮し、候補者について議論した。

以下のとおり候補を決定する。（松本）

外部委員：

- ・ 高棹真介（委員長、太陽・星形成）
- ・ 野村真理子（ブラックホール、メッシュ）
- ・ 塚本裕介（星惑星形成）
- ・ 平野信吾（宇宙論、星形成、粒子、メッシュ）
- ・ 大平豊（PIC）

内部委員：

- ・ 滝脇知也（超新星爆発）
- ・ 岩崎一成（星形成）

次点候補：

- ・ 藤本裕輔、庄田宗人

辞退が出た場合は SAC 委員長、副委員長と CfCA で協議して次候補を決定する。（松本）

（他の委員の異議なし）

委員候補者への依頼は CfCA から行う。（滝脇）

* 議事録の公開の仕方について（滝脇）

現在の運用では、CfCA で作成した議事録の確認を委員-執行部-CfCA の順で行い、それぞれ自分の発言について修正する形式を取っているが、この順番では委員が最終的な議事録を確認できないまま確定される可能性がある。一方で、執行部が直したあとに SAC にもう一度確認をお願いすると、議事録が収束しない可能性がある。このことへの対応として、出席者の間で意見が分かれた箇所は削除することについて意見を伺いたい。（滝脇）

議事録の確認の順番に問題はないのか。（松本）

最後の CfCA による確認は軽微な修正であることがほとんど。（滝脇）

意見が食い違った箇所を完全に削除するのはやりすぎなように思う。（久徳）

修正するにしても妥協点を見出すのが難しい。（滝脇）

削除すると話し合っていないことになるので、しないほうがよい。回覧した後の CfCA の修正はごく軽微なものにすべき。（松本）

議事録に対して意見が出た場合は再度回覧するしかないのではないか。（藤井）

議論が収斂するまで回覧するが、2 周しても収斂しない場合は委員長と事務局で検討することにする。（松本）

了解した。（滝脇）

* 前期委員からの引き継ぎについて

次回の議題とする。（松本）

□ 報告事項

* 2024 年度リプレイスの進捗報告（滝脇）

ユーザ側から見た変更点を説明する。

VPN 認証の形式が 2 要素認証に変更となる。

パスワードについては自然科学研究機構のセキュリティポリシーに基づき、12 桁に変更してもらうことになる。

ネットワークは従来の経路を見直した。ユーザ情報が保存されているサーバにはより高いファイアウォールを設ける。また、ポートを開けることが容易になり、外向き http の通信が可能になる。

自動でファイルバックアップを取る方法について、前回の質問を受けて対応を検討した。2 ヶ月アクセスしないとファイルを消去する運用をやめ、頻回にバックアップを取る必要をなくす。また、ファイル転送サーバを利用して、リモート側からローカル側にファイルを転送できるようにする。Globus も運用開始後にインストールする予定。

ネットワークは稼働開始後も更新されていくのか。（藤井）

基本的にはシステム停止期間中にまとめて変更する。（滝脇）

XD2000 と三鷹の機材の関係もこれまでと変わらないのか。（藤井）

そのとおりだ。（滝脇）

一般ユーザへのアナウンスの予定はどうなっているか。（松本）

11 月 25 日のユーザズミーティングで現状を説明し、12 月 10 日に講習会を行う。（滝脇）

今後、ユーザの要望はどの程度反映できるか。（松本）

内容によるが、可能な限り対応する。（滝脇）

試運転は行われているのか。（藤井）

11 月中に CfCA 内で比較的大規模なテストを行う。（滝脇）

そういったこともユーザズミーティングで話してもらえるとよい。（藤井）

カテゴリ S の運用について柔軟な対応をしたいので、ユーザから意見を募りたい。（滝脇）

その議論はどこで行われるのか。（藤井）

TAC で行う予定。（滝脇）

カテゴリに関わる方針などは SAC を通して議論するのがよいだろう。運用をどうするかは TAC で検討するのがよい。（松本）

今から議論するのは遅いのではないか。（藤井）

カテゴリ S の運用については、CfCA Web ですでに要望を受け付けているが応募はない。（滝脇）

ユーザズミーティングで再度告知し、その場でも意見を募ったほうがよい。（松本）

了解した。（滝脇）

SAC の開催回数が少ないことを事務局から指摘されている。（滝脇）

CfCA の事務局が参加しない形式の SAC の打ち合わせを何度か行っている。そこで意見をまとめて SAC で議論することもある。（松本）

（和田委員参加）

台長からの諮問事項はいつ頃出されるのか。（松本）

例年より遅れているが、年度内に出すと聞いている。（小久保）

台長が諮問事項を説明する SAC が次回 3 月に開かれるということか。（松本）

その予定だ。（小久保）

本日は以上で終了する。（松本）

以上